

楠目城を徹底解剖！

楠目城はまたの名を山田城とい
い、山田氏の拠点となった山城で
ある。鏡野中学校の北東、標高約
122 ㍎の丘陵地に位置する。

土佐の覇権を競いあった七守護
の居城は県内各地に残されている
が、それらと比べても楠目城は非
常に大きな山城といえる。

詰ノ段と二ノ段の2つの曲輪が
堀切を隔てて相対する構造をして
いる。そして、二ノ段から西に突
き出た形で、茶ガ森と呼ばれる曲
輪がある。

遺構として残されている堀や土
塁は大規模で、県内屈指の威容を
誇る。また、曲輪に礎石等の遺構
は見つかっておらず、掘立柱など
簡易な形で、櫓などの建物が建造
されていたことだろう。

詰ノ段から北側をのぞくと、深
さ10 ㍎ほどもある巨大な横堀が100
㍎以上にわたって掘られている。

北側から続く尾根を完全に分断す
る大工事である。人の力だけでこ
れだけ大掛かりな工事をしたとい
う事実には驚嘆すると同時に、山田
氏が当時誇っていた勢力の大きさ
が知れようというものだ。

山田氏の居館は楠目城の南、山
の麓にあり、戦のとき以外はそこ
で生活をしていたと思われる。隣
接して笠懸馬場（笠懸とは、笠を
的に馬上から弓で射る騎射武術）
や弓場もあった。そのさらに南に
は家臣たちの屋敷が建てられ、東
西に延びる大きな道をはさんで城
下町が広がっていた。

楠目城跡には山城としての構造
がよく残されている。想像力を携
えて森の中に立てば、武士が活躍
した戦国の世に思いをはせること
ができるだろう。

公家に憧れた山田氏

長宗我部地検帳によれば、山田氏は詰ノ段
と二ノ段の間に『鞠の庭』とあって蹴鞠を楽
しむ場所があった。また、山田氏の支配地だ
った佐岡村に城があったことを示す記述があり、
城の中心である『詰』のことを『御所ノ
内』と記している。佐岡は楠目城の奥座敷で、
山田氏の別邸だったことが想像される。客人
を招き、歌舞や能、茶などの会を催して優雅
な生活を楽しんでいた。

戦乱の時代にあつて、戦いの場である城中
に『鞠の庭』があり、別邸のことを『御所』
と呼ぶ。このことは、武家である山田氏が、
強大な勢力と豊富な財力を背景として、文化・
芸能をたしなむことに没頭し、公家化して
いったことをうかがわせる。

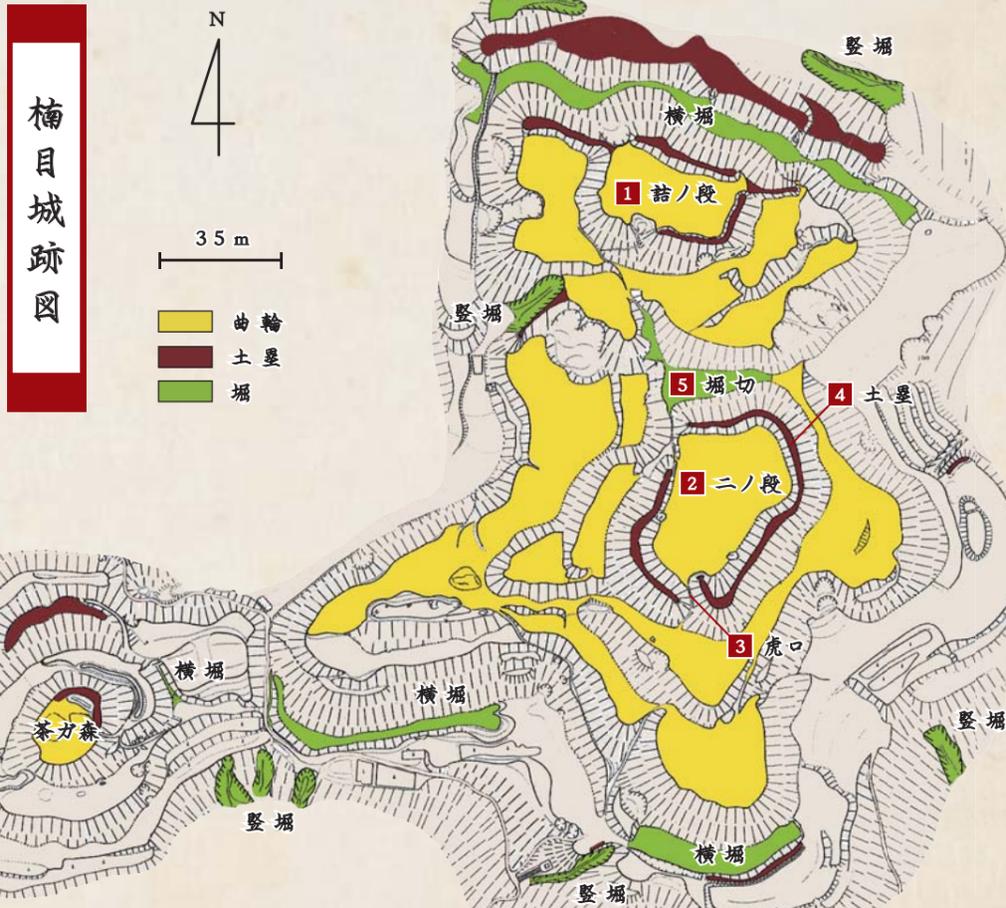
山田さん、調子に乗っていると長宗我部さ
んが攻めてきますよ！



◆所要時間…登城口から詰まで徒歩で約30分。
私有地があるため見学には配慮をお願いします。



1 詰ノ段。南北の一番長いところで21.5 ㍎、東西36 ㍎にわたる大規模な詰。2 二ノ段。詰ノ段より低い位置にあるが、構
造的にはこちらが本当の詰だったかも。3 二ノ段の虎口は、守りに適した喰違虎口だったと考えられる。4 二ノ段を取り巻く
土塁。広いところで、上部の幅は3 ㍎、基底部の幅は10 ㍎ある。5 堀切。詰と二ノ段を分断するように深く掘られている。



※この図は、大原純一氏が作成した楠目城跡縄張り図を一部加工したものです。
(楠目城跡の保存活用計画の参考とするため、平成29年度に修正。)